

ぼたんの里マップ

天然記念物「切木ぼたん」を囲むぼたんたち

明国渡来の切木ぼたん伝説から四百年、毎年4月、「切木ぼたん」は、こぼれるような大輪の花を咲かせ、人々を楽しませてくれます。今、里では1000株のぼたんを植栽中です。平成の「ぼたんの里」を目指して、新たな歴史が生まれようとしています。



ぼたと緑の丘
入園料(シーズン)
大人500円
小人300円
開園/9:00~17:00
※109種5000本の
世界の牡丹と、
30種30,000本の
芍薬が見られます

世界のぼたん園
「ぼたと緑の丘」
まで徒歩5分

切木ぼたんの由来

約400年前、豊臣秀吉は朝鮮半島出兵の前進基地として、名護屋城を築きました。当時、この地方の領主は波多三河守親。秀吉は波多氏の大陸での戦の様子を不満に思い、関東筑波山に幽閉してしまいます。その後、焼け落ちた波多氏の居城・岸岳城跡には、波多氏の妻・秀の前がこよなく愛した明国渡来のぼたんがひっそりと咲いていました。ぼたんを見つけた波多氏の家臣は、主君を思い、その一株を切木に移植。出(い)家で、代々大切に育てられてきました。「切木ぼたん」はその子孫たちです。

至唐津市街地へ10km

国道204号

国道204号へ

……臨時駐車場

……ぼたんの庭

切木ぼたんきりの由来

今 から約四〇〇年前、肥前名護屋城（東松浦郡鎮西町）から豊臣秀吉の大陸進出の際、出兵したこの地方の領主波多三河守は、そのいわれのない怒りにふれ関東筑波山に流され幽閉されました。

その後、焼け落ちた波多氏の居城岸岳城跡（東松浦郡北波多村、相知町）を訪れた波多氏の用人井手賢介（後の出賢齋）は、城跡に咲く主君が愛した一株のかれんな牡丹を見つけ、切木村に持ち帰り大事に育てました。

この牡丹は、波多氏の知人で南蛮貿易をしていた久保の塚本三鉄（キリシタン名サントス）が、明国から持ち帰り波多氏に贈ったもので、波多氏の夫人秀の前がことのほか寵愛していたものです。

その後、出（いで）家で代々大切に育てられて来ました。今は数十株に分かれたように見えますが、根元は一株です。昭和四年、県の天然記念物に指定され、毎年四月中旬大小五〇〇の花を咲かせています。中には切木ぼたん特有の二重の花もあり愛好家を楽しませています。

